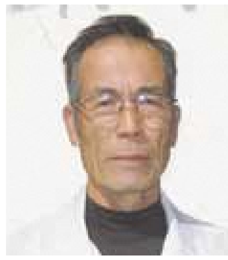
町民の声

鏡石町のこれからの農業

矢吹原土地改良区理事　佐藤　幸一郎



矢吹原土地改良区理事
佐藤幸一郎（さとうこういちろう）さん

私は現在、矢吹原土地改良区事業担当理事をしています。今年はダム工事と雪不足により羽鳥ダムの貯水不足が発生し、昨年パイプラインの漏水事故があり、工事により復旧し充水作業中再び漏水が発生し、緊急工事により五月二十日通水となりました。しかし貯水量が少なく、通常では七月上旬までの貯水でしたが、梅雨らしい天候と断水によって九月十日まで通水され、稲作も豊作になるようで、ひと安心しています。

鏡石町における農業政策で、高久田地区の基盤整備が計画されています。今の農業現状を見ますと、後継者不足と就農者の高齢化や耕作放棄などの離脱農家の発生など問題は多く、農地有効利用には大区画圃場が必要です。町全体の計画を図ることは考えないのでしょうか。農地集積を図るためにも検討してはどうでしょう。もしこのままであれば、農地は荒れ放題となり、環境も悪く維持だけの費用では発展は見えません。農地を維持するには農地所有者の責任もあると思います。

東日本大震災発生から九年目となりますが、あの時、改良区のパイプライン事故が起こり、通水を断念し、古田も水が無く休耕しました。鏡石町内の多くの古田も水源は羽鳥ダムにあったのは明白です。この水源を確保維持し続けることは、町内新田古田を問わず重要なことです。水源を有効に活用するためにも、町内全体の水田の整備が必要で、古田だけ整備計画されていると聞きますが、ぜひ調整を図って欲しいです。また、改良区賦課金も決して安くなく、もし組合員の負担過多により改良区維持困難などになれば水源確保は可能か。現在の水源を守ることは、全体で行動するべきと思います。

鏡石町が基盤整備事業を真剣に考えていただくなら、新田（改良区関係水田）と古田の区別することなく、全体的調和を図り、改良区関係水田の維持継続できる計画を考えて下さい。



秋の収穫風景

広報広聴常任委員会 全国広報研修会に参加

町村議会広報研修会が、9月24日（火）に、シェーンバッハ・サボー（東京都千代田区）で開催され、広報広聴常任委員6名が参加しました。研修会では、①「読者目線で親切な広報誌を作るには～手に取られ、読まれ、行動に結びつけるには～」②「情報をわかりやすく伝える」③「町村議会広報コンクール上位入賞団体の評価のポイント」について各講師から講話がありました。

議会と住民との良好なコミュニケーションが、議会への関心を高め、共により良い地域を作っていくことになります。そのためのきっかけとして、読んでいただける広報誌を作ることが大切であると感じました。



研修参加者の真剣なまなざし

編集後記

今回の台風19号により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。災害は、忘れたころにやってくると言いますが、備えなどは、いつでも確認しておきたいものです。

9月の定例会において、平成30年度一般会計及び特別会計の施策成果によるそれぞれの決算審査が行われ、総額約94億円の決算が認定されましたことをご報告いたします。

広報広聴常任委員会の新しい6名による議会だよりの編集・発行が始まりました。

話題と豊富な情報の提供、町民の皆様に高いテーマの取組みと、町議会への関心が身近に感じて頂けるよう、より良い議会だよりを目指し、委員一同で取り組んで行く所存です。

発行責任者
議　長　古川　文雄
広報広聴常任委員会
委員長　今泉　文克
副委員長　大河原正雄
委　員　畑　幸一
委　員　角田　真美
委　員　木原　秀男
委　員　円谷　寛

かがみいし 議会だより



No.174
令和元年11月
発行　福島県鏡石町議会
編集　広報広聴常任委員会
〒969－0492 福島県岩瀬郡鏡石町不時沼345
電話0248(62)2110
印刷　(有)永山印刷

台風19号により 阿武隈川氾濫



10月12日（土）～13日（日）にかけて東日本を縦断した台風19号は、各地に大きな被害を及ぼしました。各地にもたらした雨は、河川を増水させ、成田地区でも、阿武隈川で2カ所、鈴川2カ所が決壊し、住宅や倉庫など床上浸水となり、大きな被害となりました。

目　次

台風19号関連 ………… 2ページ
第1回臨時会 ………… 3ページ
第1回定例会 ………… 5ページ
一般質問 ………… 7ページ
審議の結果 ………… 11ページ
町民の声 ………… 12ページ